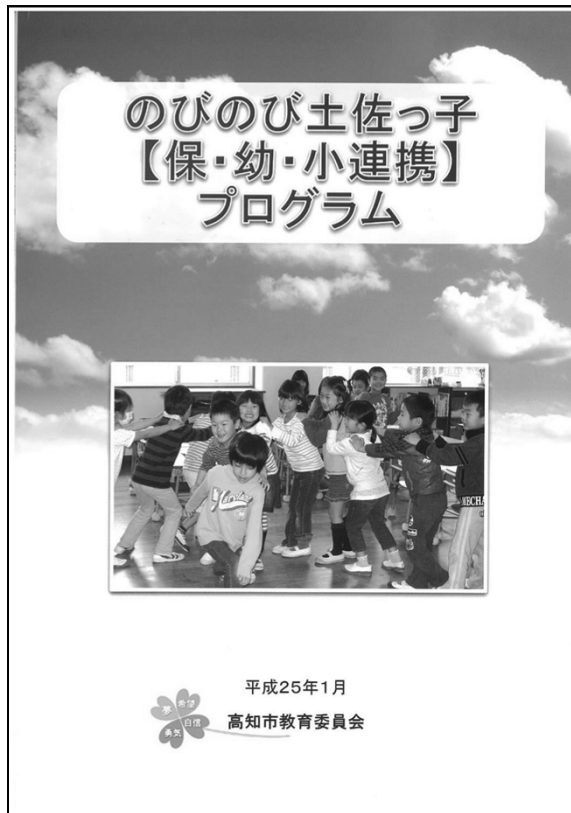


1

保・幼・小連携で人をつなぐ・組織をつなぐ・教育をつなぐ

## 保・幼・小連携の目的

人・組織・教育をつなぐ取組を通して、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の実現と双方の充実をめざす。



保・幼・小連携の指針（平成24年度作成）

## 接続のための取組

つなぐ

園児と児童の交流

保幼小教職員の連携

入学前 保護者説明会

カリキュラムを滑らかに

# 2

## 保・幼・小連携推進地区事業(20モデル地区)

### 概要

20小学校区(20小学校・58園)を連携推進地区として指定し、「のびのび土佐っ子【保・幼・小連携】プログラム」で提案した「人をつなぐ」「組織をつなぐ」「教育をつなぐ」取組を進め、その先進事例を、保・幼・小連携研修会や冊子を通して、高知市全体に広げていく。

実践事例集  
(平成25年度作成)

実践事例パンフレット  
(平成26年度作成)

実践事例パンフレット  
(平成28年度作成)



実践事例パンフレット  
(平成27年度作成)

平成28年3月  
高知市教育委員会

# 3

## 人をつなぐ取組・・・園児と児童の交流・保護者への働きかけ (実践事例パンフレットから)

### 一日入学で交流



一日入学は、園児と児童の貴重な交流の場となります。園児が小学校の授業を体験できるように、また、小学生との関わりが深まるように、交流活動を取り入れる学校が増えてきました。

一日入学で実施する交流活動でも、園児と児童がペアや小グループになって活動することで名前を覚え、少しずつ仲良くなる様子が見られます。



### 生活科・国語科等で交流



生活科1年「秋のおもちゃだいしゅうこう」、2年「楽しい遊びを考えよう」、「昔あそびをしよう」、国語1年「じゃんけんやさんをひらこう」、「大きな本をしょうかいしよう」など、園児との交流の機会は教科の学習の中にもたくさんあります。園児にとっても小学生にとっても学びのある交流にするための打ち合わせが大切です。



### 年長児保護者とのつながり



年長児保護者を対象に、小学校の管理職や1年担任などが、小学校生活について話をする機会を設けている校区があります。保護者からは、「直接お話が聞けるので安心します」「園と小学校が一緒になって子どもを育ててくれていると感じます」と、好評です。実施時期も内容に応じて1学期であったり3学期にしたりと工夫しています。



# 4

## 組織をつなぐ取組・・・保・幼・小の教職員の共通理解を図る取組 (実践事例パンフレットから)



夏季休業中に、小学校の全教職員がグループに分かれて連携している園を訪問し、保育者体験や保育参観をする校区が増えていきます。

**子どもの発達の特徴を知ること、指導や支援が変わります！**

校区の園の保育者が、小1の学級で授業をするといった取組もあります。子どもたちも楽しみにしています。



園で行われる園内研修に、小学校の管理職や小1担任が交代で参加するなどの工夫がされています。

**互いの取組を知ること、子ども理解が深まります！**

校区の園からも、小1のスタートカリキュラムの実践を見に、小学校を訪問します。授業後の協議も盛り上がります。



### 組織をつなぐ取組いろいろ



園と小学校の教職員が、講師を招いて合同研修

合同研修の際に、小学校や園からの実践発表を位置付ける校区も増えてきました。



保・幼・小・中連携の動きも(学びと育ちをつなぐことをテーマに協議)



## 教育をつなぐ取組…アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの実践 (実践事例パンフレットから)

### 幼児期の学びの芽生え【思考力の芽生え】を 児童期につなぐ

スタートカリキュラムでは、生活科の「春見付け」で気付いたことを、図画工作の「春のTシャツを作ろう」といった表現活動につなげるなど、合科的・関連的にねらいに迫ります。その過程で工夫したり、自己決定したりしながら考える力を伸ばします。



アプローチカリキュラムでは、物との多様な関わりの中で、物の性質や仕組みについて考えたり、気付いたりすることを大切にしています。

### 幼児期の人との関わり【協同性】を 児童期につなぐ

スタートカリキュラムでは、互いの考えや思いを言葉で伝え合う場面を意図的に設定し、相手の立場を考えながら自分たちで問題を解決していこうとする力を伸ばします。



アプローチカリキュラムでは、いろいろな友達と積極的に関わり、友達の思いや考えなどを感じながら行動することや、相手に分かるように伝えたりすることを大切にしています。

※ アプローチカリキュラムとは、入学前の時期に保育所・幼稚園・認定こども園等において行われる、小学校生活に円滑につなげていくためのカリキュラムのことです。スタートカリキュラムとは、入学当初に小学校で行うもので、幼児期に体験してきたことと教科学習の要素を組み合わせた合科的・関連的な学習プログラムのことです。



## こうすればうまくいく！ Hint Card

### 「スタカリ8」できました！

#### スタカリ8

●スタートカリキュラムでは・・・  
小学校へ入学した子どもが、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を  
通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を  
創り出していくようになることをめざしています。

子どもの安心・成長・自立のために

### 小1スタートカリキュラム 振り返りシート

このシートは、スタートカリキュラムの授業におけるポイントを提案しています。  
授業を振り返る際にご活用ください。

#### スタートカリキュラムの授業において

スタカリ8→該当する項目に○を付けてください。😊

★1	子どもの 気付き	子どもの気付きを大切にし、子どもの思いや願いを生かして授業を進めた。	<input type="checkbox"/>
★2	子ども同士 の関わり	教師と子どもの関わりだけでなく、子ども同士が関わる活動を位置付けた。	<input type="checkbox"/>
★3	子どもの 自己決定	子どもが自己選択や自己決定する場面を位置付けた。	<input type="checkbox"/>
★4	子どもの 意欲	指示する言葉を減らし、子どもの意欲を引き出す声かけをしたり、教材・教具の工夫をしたりした。	<input type="checkbox"/>
★5	幼児期の 学びを生かす	幼児期に経験してきたことを子どもから引き出し、授業に生かした。	<input type="checkbox"/>
★6	学習ルール ・学び方	必要感のある場で指導し、子どもがルールの必要性を考えたり、さらに良い方法がないか話し合ったりする場面をつくった。	<input type="checkbox"/>
★7	発達の段階 を意識した 構成・活動	15～20分程度のモジュールで時間割を構成したり、活動性のある学習を入れたりした。	<input type="checkbox"/>
★8	学習環境の 工夫	目で見て分かる掲示や、活動の流れが分かる掲示などを工夫し、子どもの安心感を高めた。	<input type="checkbox"/>



高知市教育委員会学校教育課

### スタートカリキュラムは 学校全体で！



管理職や、級外の教員がローテーションを組んで、1年生の各クラスの朝の会へ。子どもたちは毎朝楽しみにしています。



1年生の学校探検で、校長室は人気のスポットです。子どもたちからたくさん質問が出されます。



#### ● Hint Card 07

アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムに取り組む際には、園全体、学校全体でその目的や内容についての共通理解が図られることで、協力体制が整い、さらに効果が高まります。

#### ● Hint Card 08

小学校生活のスタートを円滑に、そして豊かにするために、園や小学校で、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムなどに取り組んでいることを保護者に発信することで、保護者にも安心感が生まれます。

#### ● Hint Card 09

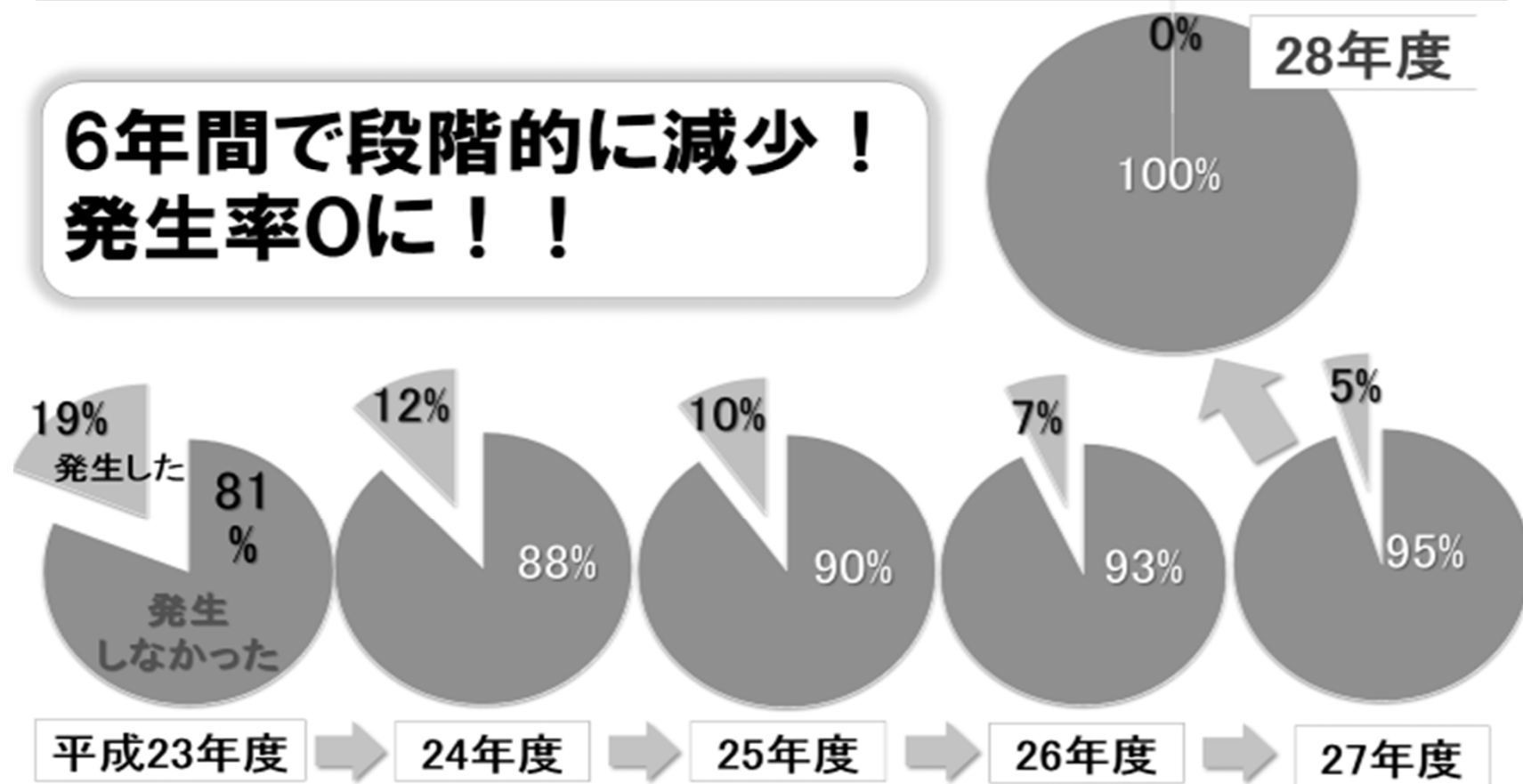
各校・園における実践をもとに、『アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム事例集改訂版Ⅲ』を作成しました。園児と児童の交流事例をプラスしてさらに使いやすいものになっています。

3～4月に配付しますのでぜひ参考にしてください。

6

小1プロブレム発生率（発生した学校の割合）

6年間で段階的に減少！  
発生率0に！！



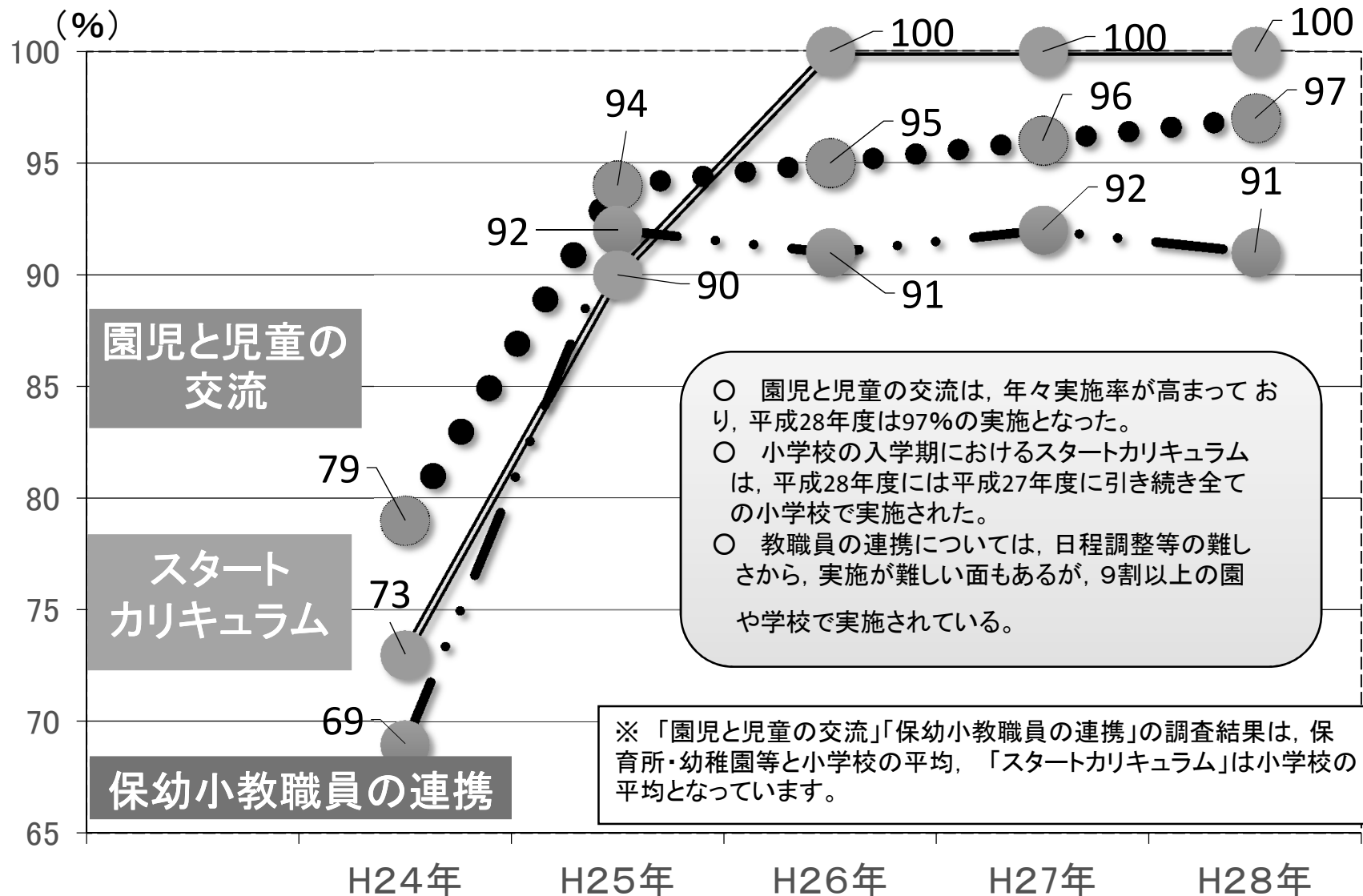
※ 小1プロブレムについて

高知市教育委員会では、小1プロブレムを「第1学年の学級において、入学後の落ち着かない状態が解消されず、担任等の話を聞かない、指示どおりに行動しない、授業中に勝手に教室の中を立ち歩いたり教室から出ていったりするなど、授業規律が守れず、そのために授業が成立しない状態へ拡大し、こうした状態が数か月にわたって継続する状況」であるととらえています。

本調査では、発生した学校の割合を表しています。

7

保・幼・小連携の取組に関する調査結果(実施率)



# 8

## 保・幼・小連携研修会

○目的 保・幼・小の連携を図り、「小1プロブレム」等の課題に対応していくため、幼児期の教育と小学校教育の滑らかで確実な接続を図る。

○内容 ・実践発表：高知市保・幼・小連携推進地区の発表  
・講演

平成24年度 白梅学園大学 無藤 隆 教授  
「保・幼・小連携と接続期カリキュラムの必要性」

平成25年度 国立教育政策研究所 田村 学 教育課程調査官  
「こうすればうまくいく！保・幼・小連携」

平成26年度 上智大学総合人間科学部教育学科 奈須 正裕 教授  
「保・幼・小連携で学びと育ちをつなぐ」

平成27年度 文部科学省初等中等教育局 田村 学 視学官  
「子どもの学びと育ちをつなぐ～『内なる問い』を引き出す保育・教育～」

平成28年度 広島大学大学院 朝倉 淳 教授  
「子どもの学びと育ちをつなぐ保・幼・小連携」

平成29年度 東京大学大学院 秋田 喜代美 教授  
「子どもの学びと育ちをつなぐ保・幼・小連携 新しい教育要領等の改訂を踏まえて」

・グループ協議：実践交流と今後の取組について

○参加人数 H24 146名 ・ H25 155名 ・ H26 147名 ・ H27 172名  
H28 161名 ・ H29 171名



## 9

# 成果と今後の課題

### 【成果】

- 保・幼・小連携推進地区では、小学校が中心となり、校区にある保育所・幼稚園・認定こども園等と協働し、「人をつなぐ」「組織をつなぐ」「教育をつなぐ」取組を進めることができた。
- 「組織をつなぐ」取組の教職員連携の実施率は91%であり、ほとんどの園や小学校で実施されている。小学校教員による保育者体験や子どもの学びと育ちをつなぐための合同研修を行う地区が少しずつ増えてきており、園と小学校の教職員の相互理解が図られている。
- 「教育をつなぐ」取組においては、アプローチカリキュラムの作成やスタートカリキュラムの工夫が意識され始め、それぞれの保育・教育の充実が進みつつある。
- 推進地区の効果的な取組について冊子や校長会・園長会等で発信することで、推進地区以外の校区においても取り入れられるようになり全市的に保・幼・小連携の取組が広がってきている。

### 【今後の課題】

- 今後は、「教育をつなぐ」取組をさらに充実し、新幼稚園教育要領等や小学校学習指導要領の趣旨を踏まえた取組を推進していく。